

【計画概要】

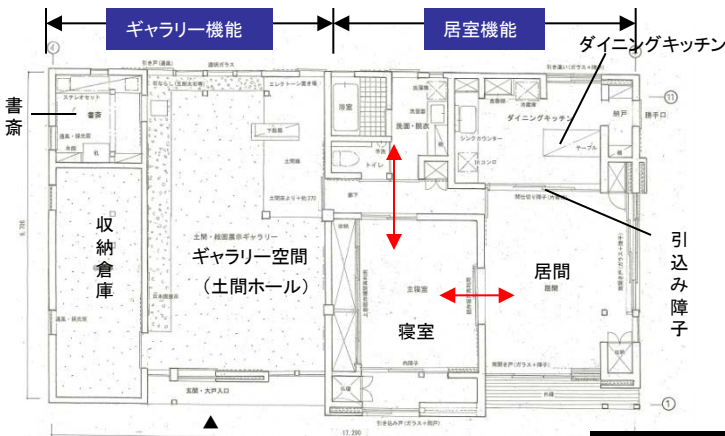
敷地面積: 2449㎡
 建築床面積: 158㎡
 構造: 木造伝統工法 平屋建
 屋根: 草葺に金属屋根(既存)
 都市計画法: 未線引き区域
 デザイン: 2010.6~10
 完成: 2011.10



●多古町の古民家再生です。

シルバーライフを迎えるご夫婦の住まいとして、築120年程前に建てられた下総にある農家住宅の改修です。既存家屋の基本調査、主要部の実測調査等を踏まえ、再生設計を進めました。依頼主の要望を整理し、全体を2つの機能に大別し、古民家の魅力を生かした新しい暮らし方を工夫しています。

古民家再生模型写真(全体)

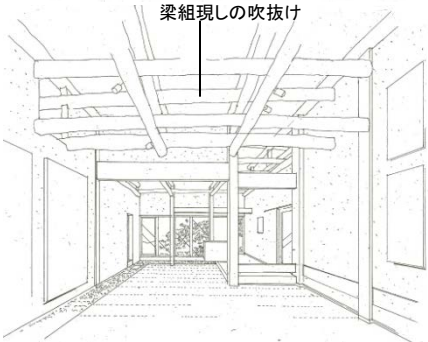


再生平面図

土間ギャラリーを見る(模型写真)

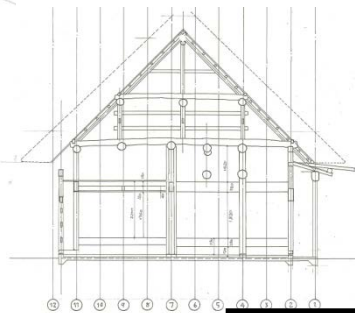


梁組現しの吹抜け



ギャラリー

ご夫婦が收藏されている日本画の飾る土間ホール。



梁行断面図



建具の再利用

東側リビングを見る



南側に面する各室。左から倉庫・土間玄関・寝室・居間が並ぶ。外壁は漆喰左官仕上げ、建具は部位により木製建具を使用している。

土間を家族ギャラリーの機能をもつ吹抜け玄関ホールに改修。



再生後の外観。

思い出の家族の作品展示



リビングから寝室を見る。左側は南庭に対して障子・硝子戸が引き込める



明治中期と推定される伝統民家の再生です。ご夫妻は都心から離れた自然環境の下でシルバーライフを過ごしたい思いから、房総の香取に所在する古民家の再生をなされました。

ご夫妻の要望は、祖父の描かれた多くの絵画作品を収蔵し展示する場、小書斎の確保等で、他は比較的自由にデザインを進めました。改修設計は現地に古民家が遺存し、完成後に住み移る予定のため、現場調査、実測等も再三確認しながらまとめました。また工務店による軸部の劣化状態の確認、基礎部の改善工事など並行的に進めました。工事は既存の柱・梁・小屋組構造を残し、壁量を増やし、造作部をすべて新しくしました。各室構成は、土間ギャラリー、絵画等の収納庫、一体化できるリビングとダイニングキッチン、寝室、浴室、トイレです。建具類は全て引戸方式を採用し、外部に面する障子は太鼓張り。また部屋の明るさを高めるため反射率約85%以上の白漆喰仕上、床は檜縁甲板無塗装としました。建材は断熱材等の工業製品を除き大半は自然素材、無垢木材です。なお、この再生は、千葉県古民家再生協会を設立間もない頃に、私と理事により最初のモデル指針になればという思いで、力を注ぎました。



リビングよりダイニング、裏庭を見透す。



土間上部の梁組を旧来のまま生かす。



障子を引こんだ寝室の内縁



調湿性のある無垢の檜で囲う

既存欄間の再利用